Raviege（一般地型）組立説明書

ヨドガレージ・ラヴィージュ

VGB-2652（H）　VGB-2655（H）　VGB-2659（H）　VGB-2662（H）
VGB-3052（H）　VGB-3055（H）　VGB-3059（H）　VGB-3062（H）
VGB-3352（H）　VGB-3355（H）　VGB-3359（H）　VGB-3362（H）

この組立説明書は、ガレージを安全に組立てていただくために、重要な事項を記載しています。
施工前に必ずお読みください。
また、部品箱の中の取扱説明書は、必ずお客様にお渡しください。
本文は、2連棟タイプを基準にしていますが単棟タイプ、3連棟以上も手順は同様です。

寸法 / 機種名	奥行き（mm）		高さ（　）内はHタイプ（mm）			巾（mm）		
	A	B	C	D	E	F	G	H
VGB-1952	5,220	5,550	2,349 (2,589)	2,155.5 (2,395.5)	1,891.5 (2,131.5)	1,866.5×n+165	1,866.5×n+85	1,678.5
VGB-1955	5,570.5	5,900.5	2,348.5 (2,589)	2,156 (2,396)				
VGB-1959	5,921	6,251	2,348.5 (2,589)	2,156.5 (2,396)				
VGB-1962	6,271.5	6,601.5	2,348 (2,589)	2,157 (2,397)				
VGB-2652	5,220	5,550	2,349 (2,589)	2,155.5 (2,395.5)	1,891.5 (2,131.5)	2,567.5×n+165	2,567.5×n+85	2,379.5
VGB-2655	5,570.5	5,900.5	2,348.5 (2,589)	2,156 (2,396)				
VGB-2659	5,921	6,251	2,348.5 (2,589)	2,156.5 (2,396)				
VGB-2662	6,271.5	6,601.5	2,348 (2,589)	2,157 (2,397)				
VGB-3052	5,220	5,550	2,349 (2,589)	2,155.5 (2,395.5)	1,891.5 (2,131.5)	2,918×n+165	2,918×n+85	2,730
VGB-3055	5,570.5	5,900.5	2,348.5 (2,589)	2,156 (2,396)				
VGB-3059	5,921	6,251	2,348.5 (2,589)	2,156.5 (2,396)				
VGB-3062	6271.5	6,601.5	2,348 (2,589)	2,157 (2,397)				
VGB-3352	5220	5,550	2,349 (2,589)	2,155.5 (2,395.5)	1,891.5 (2,131.5)	3,268.5×n+165	3,268.5×n+85	3,080.5
VGB-3355	5570.5	5,900.5	2,348.5 (2,589)	2,156 (2,396)				
VGB-3359	5921	6,251	2,348.5 (2,589)	2,156.5 (2,396)				
VGB-3362	6271.5	6,601.5	2,348 (2,589)	2,157 (2,397)				

n:連棟数

設置場所の制限

⚠注意
- 大屋根からの雨水や、雪が直接ヨドガレージの屋根に落ちる場所には設置しないでください。

⚠注意
- 崖のふち、風当りの強い場所等安全の確認できない場所には設置しないでください。

⚠注意
- 給湯器の前には設置しないでください。

施工全般

⚠注意　施工の際には、次の点を必ず守ってください。

- ブロックでの基礎は絶対におやめください。強度確保のため、鉄筋入りの布基礎としてください。
- 施工前に必ず布基礎の水平を確認してください。水平がでていないと、ガレージの建付けが悪くなります。
- 強風時や雨天時の組立てはおやめください。
- 高所での組立てとなりますので、足場板、安全帯などを使用して、作業時の安全には、十分注意してください。
- 重量物・長尺物は運搬・据付の際に複数人数で行い、振り回したり、落としたりしないよう、注意してください。
- 安全のため、手袋をして組立てを行なってください。
- ボルトは口に入れないでください。

屋根の施工

⚠注意
- 屋根に上がる場合は、転倒、転落等に十分注意してください。

⚠注意
- 屋根の重ね部を締結するまで、重ね部には絶対に乗らないでください。

基礎施工例参考図

■単棟タイプ

機種	W	D	Da	Db
VGB-2652（H）	2567.5	5240	2507.5	2507.5
VGB-2655（H）		5590.5	2858	2507.5
VGB-2659（H）		5941	2858	2858
VGB-2662（H）		6291.5	3208.5	2858
VGB-3052（H）	2918	5240	2507.5	2507.5
VGB-3055（H）		5590.5	2858	2507.5
VGB-3059（H）		5941	2858	2858
VGB-3062（H）		6291.5	3208.5	2858
VGB-3352（H）	3268.5	5240	2507.5	2507.5
VGB-3355（H）		5590.5	2858	2507.5
VGB-3359（H）		5941	2858	2858
VGB-3362（H）		6291.5	3208.5	2858

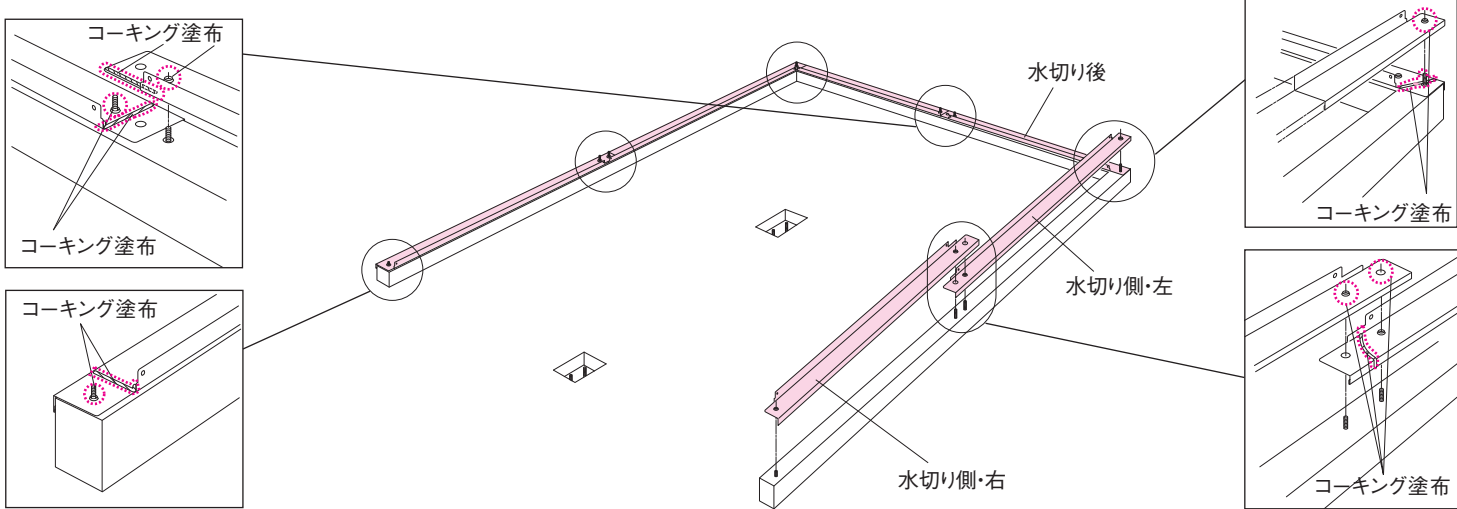
ラヴィージュ基礎断面参考図
地耐力 50kN/m²以上、コンクリート強度18N/mm²以上、基準風速34m/s、地表面粗度区分III
注1）地耐力が50kN/m²未満（30kN/m²以上）の場合、底盤幅を300mmとし、かつ補強筋を入れてください。
注2）寒冷地の場合、凍結深度等を考慮し、実情にあわせて設計してください。
注3）強風地、寒冷地などに設置する場合は、現地の実情にあわせて設計してください。

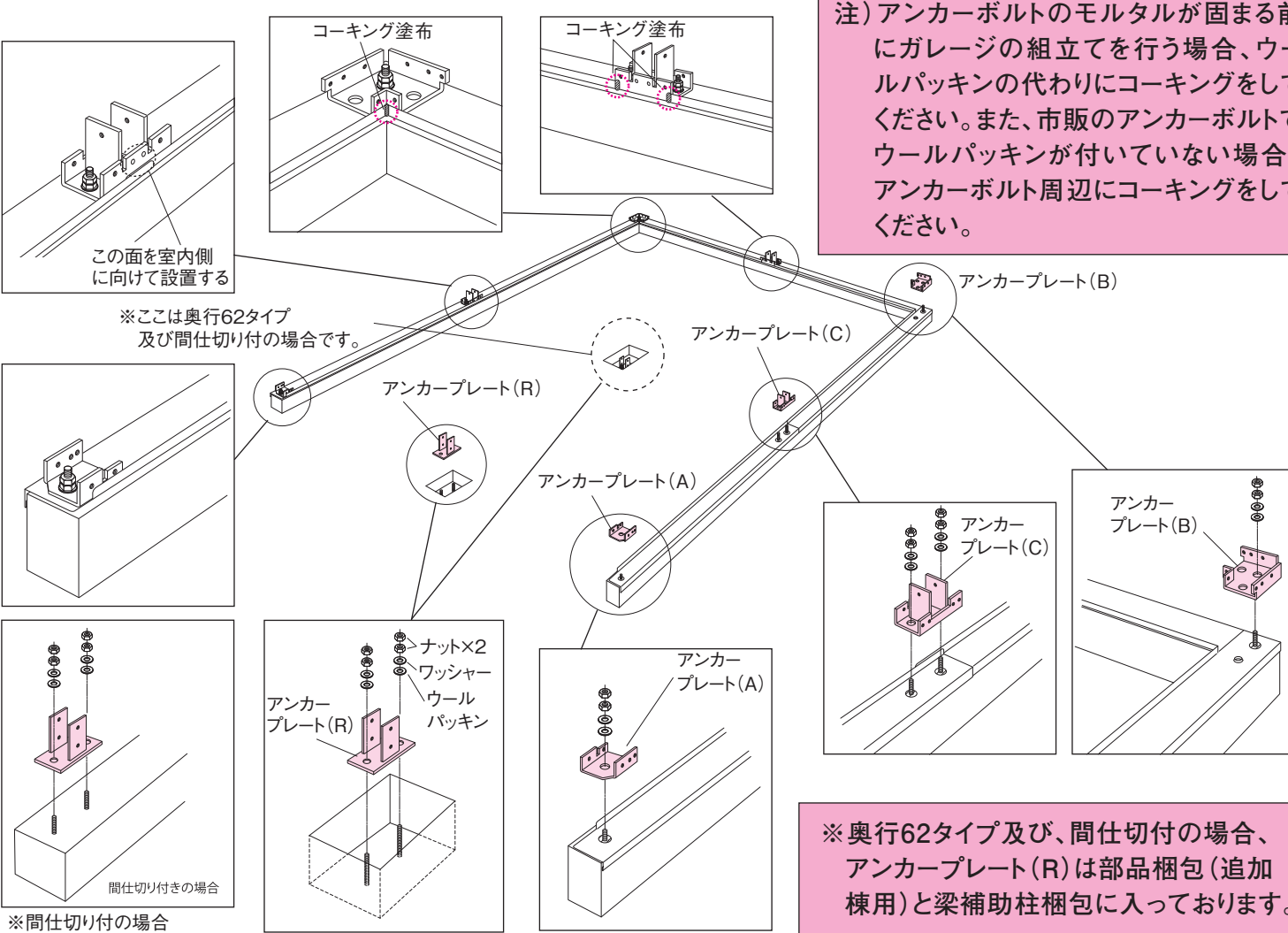
■連棟タイプ

機種	W	D	Da	Db
VGB-1952（H）	1866.5	5240	2507.5	2507.5
VGB-1955（H）		5590.5	2858	2507.5
VGB-1959（H）		5941	2858	2858
VGB-1962（H）		6291.5	3208.5	2858
VGB-2652（H）	2567.5	5240	2507.5	2507.5
VGB-2655（H）		5590.5	2858	2507.5
VGB-2659（H）		5941	2858	2858
VGB-2662（H）		6291.5	3208.5	2858
VGB-3052（H）	2918	5240	2507.5	2507.5
VGB-3055（H）		5590.5	2858	2507.5
VGB-3059（H）		5941	2858	2858
VGB-3062（H）		6291.5	3208.5	2858
VGB-3352（H）	3268.5	5240	2507.5	2507.5
VGB-3355（H）		5590.5	2858	2507.5
VGB-3359（H）		5941	2858	2858
VGB-3362（H）		6291.5	3208.5	2858

注）側面シャッターを取付ける場合は予め水切り、下枠を加工して取付けてください。
※加工方法は、オプション側面シャッターの組立説明書に記載しています。

1 水切り

①水切りをアンカーボルトにセットします。水切り後は、アンカーボルト用の孔をシールでふさいでいますので必要な孔のシールを切ってください。
②水切りの重ね部及びアンカーボルトの根本（◯部）をコーキングします。
※コーキングが不十分ですと、雨水等が庫内に浸入する恐れがありますのでしっかりと必要箇所に塗布してください。

2 アンカープレート

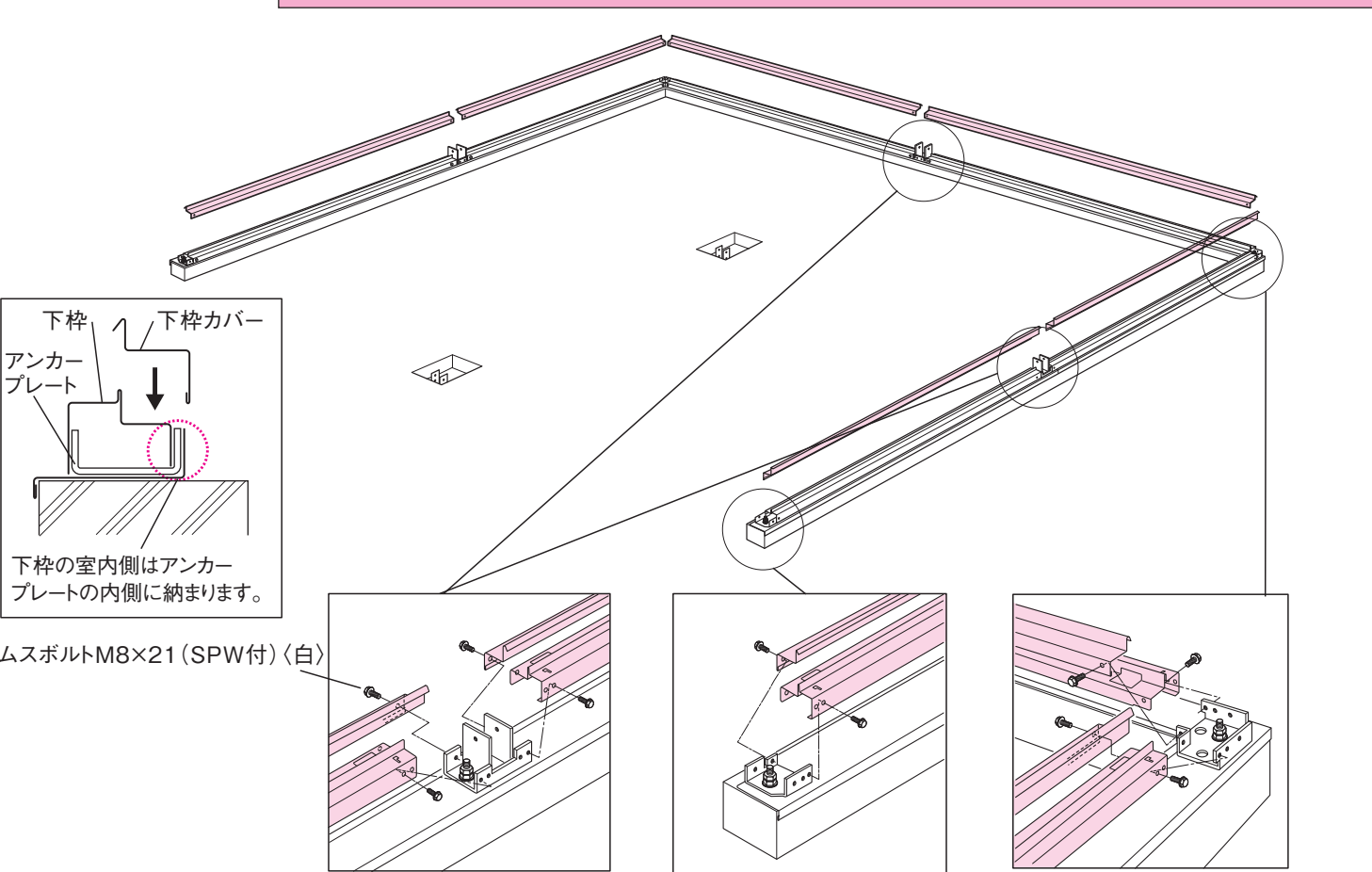
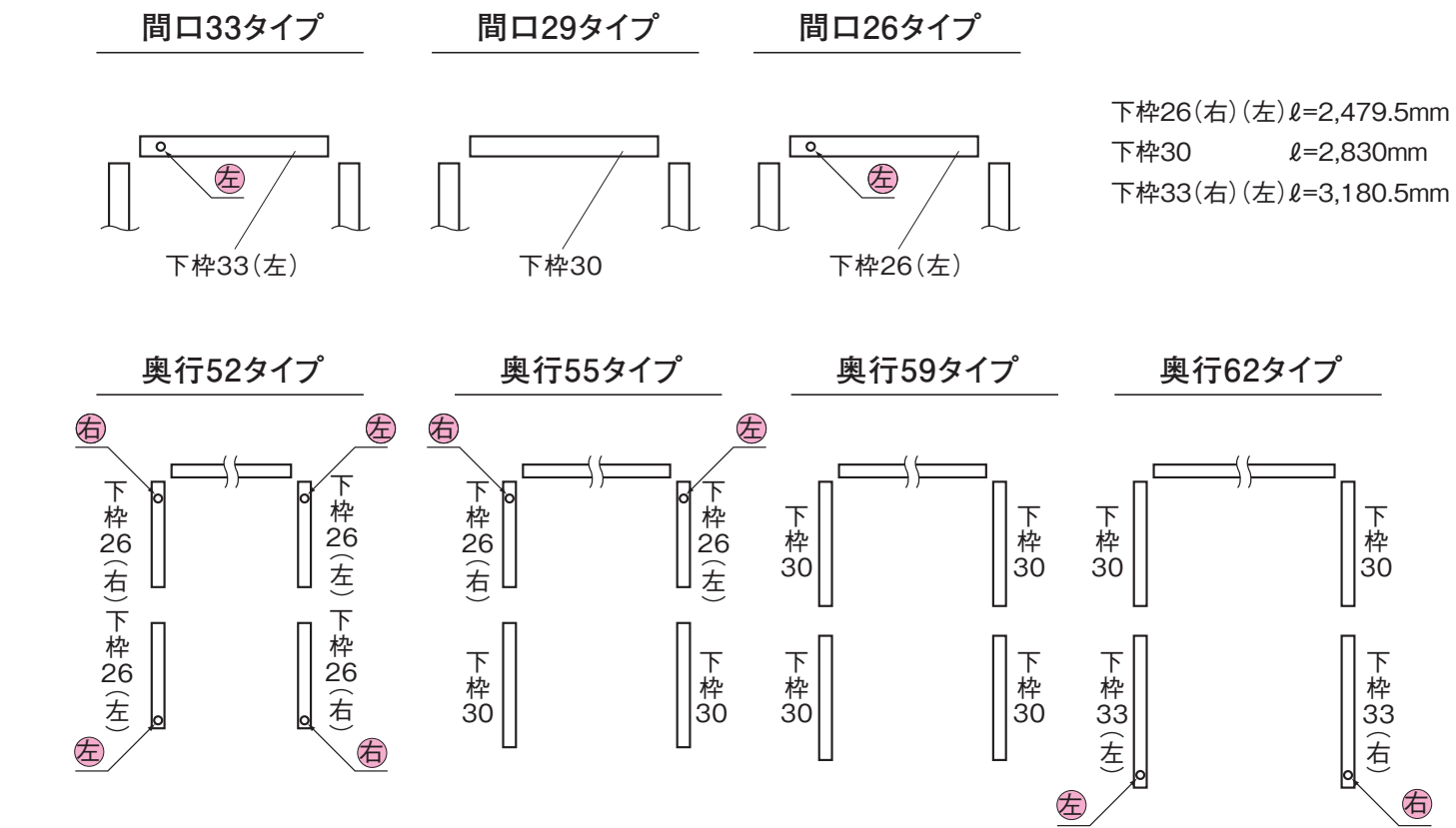
①アンカープレートを取付けます。（ウールパッキン、ワッシャー、ナット1/2″×2）
②◯部をコーキングします。
※コーキングが不十分ですと、雨水等が庫内に浸入する恐れがありますのでしっかりと必要箇所に塗布してください。

注）アンカーボルトのモルタルが固まる前にガレージの組立てを行う場合、ウールパッキンの代わりにコーキングをしてください。また、市販のアンカーボルトでウールパッキンが付いていない場合、アンカーボルト周辺にコーキングをしてください。

コーキング塗布
この面を室内側に向けて設置する
※ここは奥行62タイプ及び間仕切り付の場合です。
アンカープレート（B）
アンカープレート（C）
アンカープレート（R）
アンカープレート（A）
ナット×2
ワッシャー
ウールパッキン
間仕切り付きの場合
※間仕切り付の場合

※奥行62タイプ及び、間仕切付の場合、アンカープレート（R）は部品梱包（追加棟用）と梁補助柱梱包に入っております。

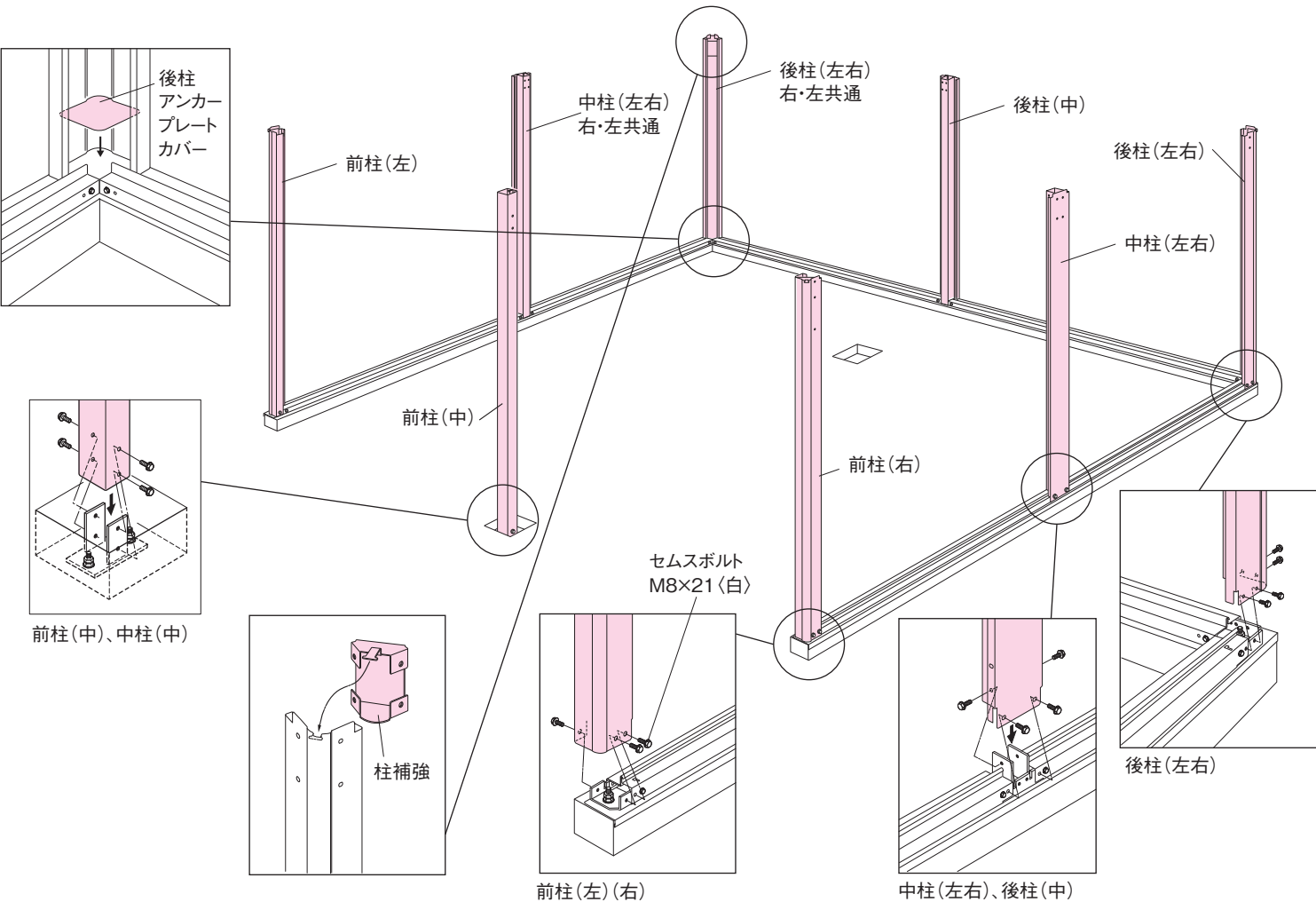
3 下枠

①下枠を配置し、室外側を仮止めします。
（セムスボルトM8×21（スプリングワッシャー付※以下SPW付）〈白〉）
②下枠カバーを取付けます。（セムスボルトM8×21（SPW付）〈白〉）

注）下枠33及び下枠26には左右がありますので注意してください。（下図下枠配置図参照）

4 柱

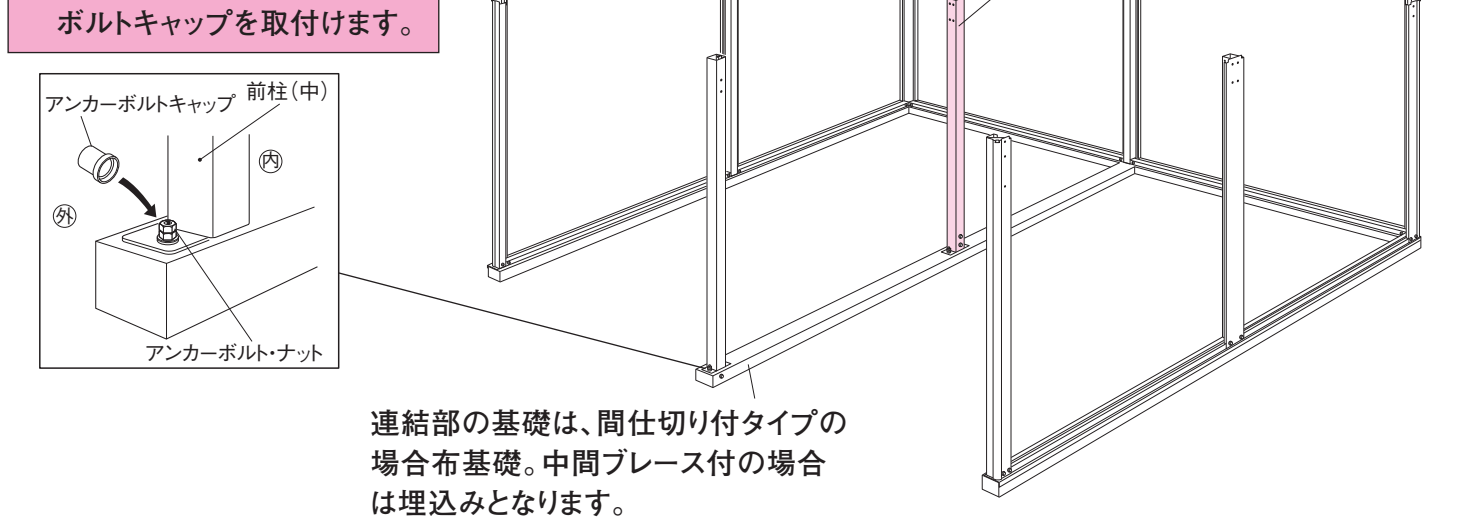
①柱をアンカープレートに取付けます。（セムスボルトM8×21（SPW付）〈白〉）
②柱を取り付けた後、下枠の外側のボルトを本締めします。
③後柱（左右）に柱補強を取付けます。
④後柱アンカープレートカバーをコーナー部のアンカープレートの上にかぶせます。

※「強風地向け補強材」を取付ける場合は、柱に孔加工が必要です。
設置場所にスペースが無い場合は、柱の左右に注意して先に加工してください。
加工については「強風地向け補強材」組立説明書（VG3-PB51）に記載しています。

標準タイプ

間仕切り付タイプ、中間ブレース付タイプ

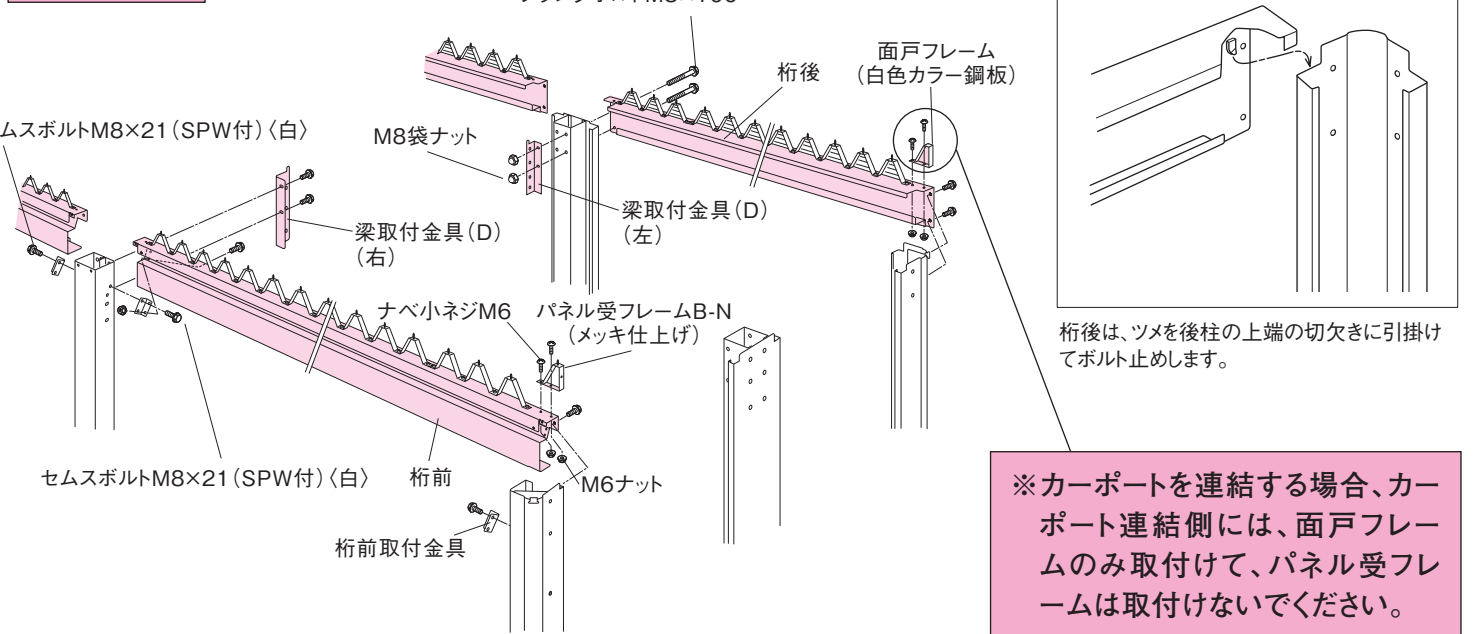
間仕切り付タイプ及び中間ブレース付タイプの場合は、中柱（中）も取付けてください。（セムスボルトM8×21（SPW付）〈白〉）

※間仕切り付タイプはアンカーボルトキャップを取付けます。

アンカーボルトキャップ
前柱（中）
㊥
㊦
アンカーボルト・ナット
中柱（中）

連結部の基礎は、間仕切り付タイプの場合布基礎。中間ブレース付の場合は埋込みとなります。

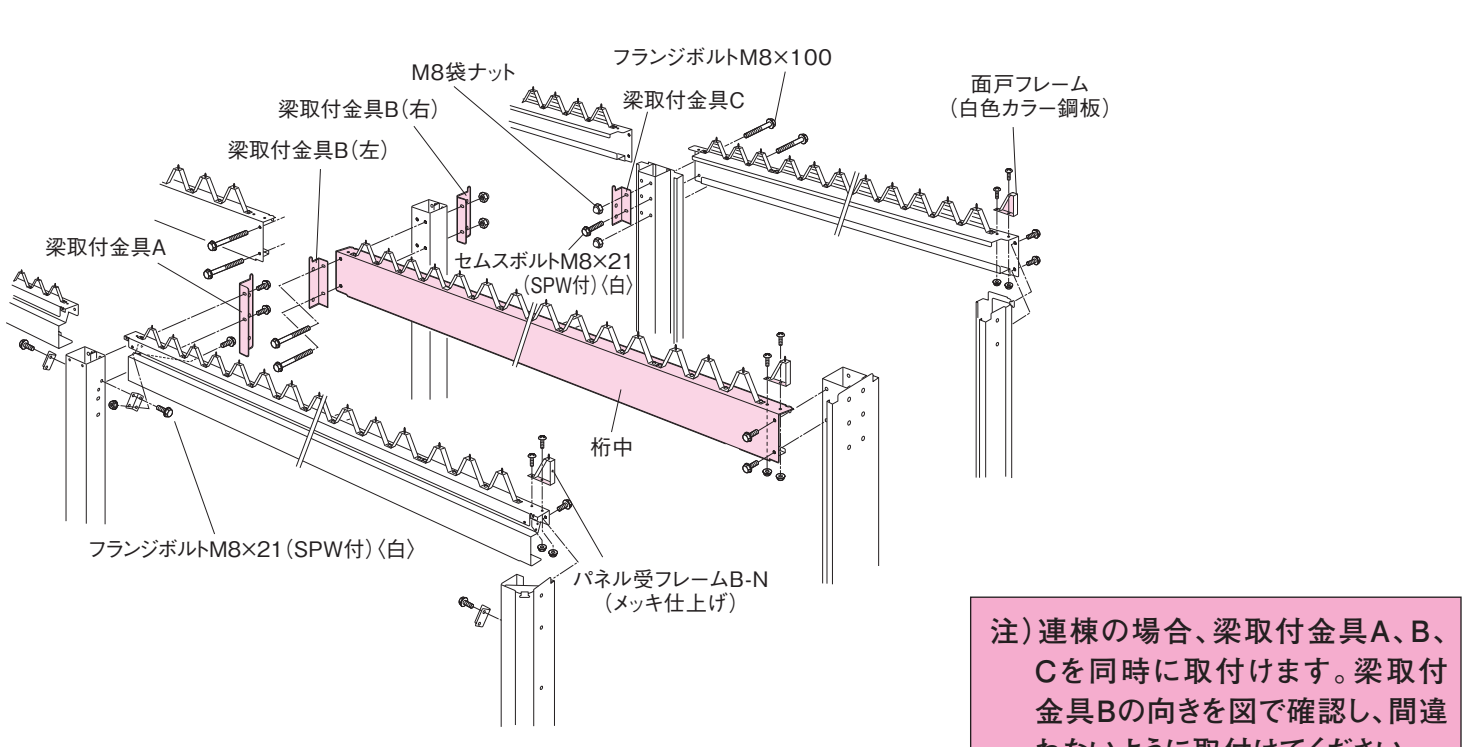
5 桁

①桁前の両サイドにパネル受フレームB-N（メッキ仕上げ）、桁後の両サイドに面戸フレーム（白カラー鋼板）を取付けます。（ナベ小ネジM6×14、M6ナット）
②桁前、桁後を柱にのせ取付けます。（セムスボルトM8×21（SPW付）〈白〉）
※桁中は梁を取付けた後に取付けます。
※柱が倒れる恐れがありますので注意してください。
③連棟の場合は前柱（中）後柱（中）に梁取付金具（D）を同時に取付けます。
（セムスボルトM8×21（SPW付）〈白〉、フランジボルトM8×100〈白〉、M8袋ナット）
（向きに注意してください。）

標準タイプ

※カーポートを連結する場合、カーポート連結側には、面戸フレームのみ取付けて、パネル受フレームは取付けないでください。

間仕切り付タイプ、中間ブレース付タイプ

①桁前、桁中の両サイドに、パネル受フレームB-N（メッキ仕上げ）、桁後の両サイドに面戸フレーム（白カラー鋼板）を取付けます。（ナベ小ネジM6×14、M6ナット）
②桁を柱にかぶせるように乗せ、取付けます。（セムスボルトM8×21（SPW付）〈白〉）
③連結部は、梁取付金具を同時に取付けます。

M8袋ナット
フランジボルトM8×100
梁取付金具C
梁取付金具B（右）
梁取付金具B（左）
面戸フレーム（白色カラー鋼板）
梁取付金具A
セムスボルトM8×21（SPW付）（白）
桁中
フランジボルトM8×21（SPW付）（白）
パネル受フレームB-N（メッキ仕上げ）

注）連棟の場合、梁取付金具A、B、Cを同時に取付けます。梁取付金具Bの向きを図で確認し、間違わないように取付けてください。

6 上枠・梁

標準タイプ

①上枠前右・左と上枠後右・左を取付けます。（セムスボルトM8×21（SPW付）〈白〉、フランジボルトM8×100〈白〉、M8ナット）
②梁（右）をのせ、次に梁（左）をのせます。

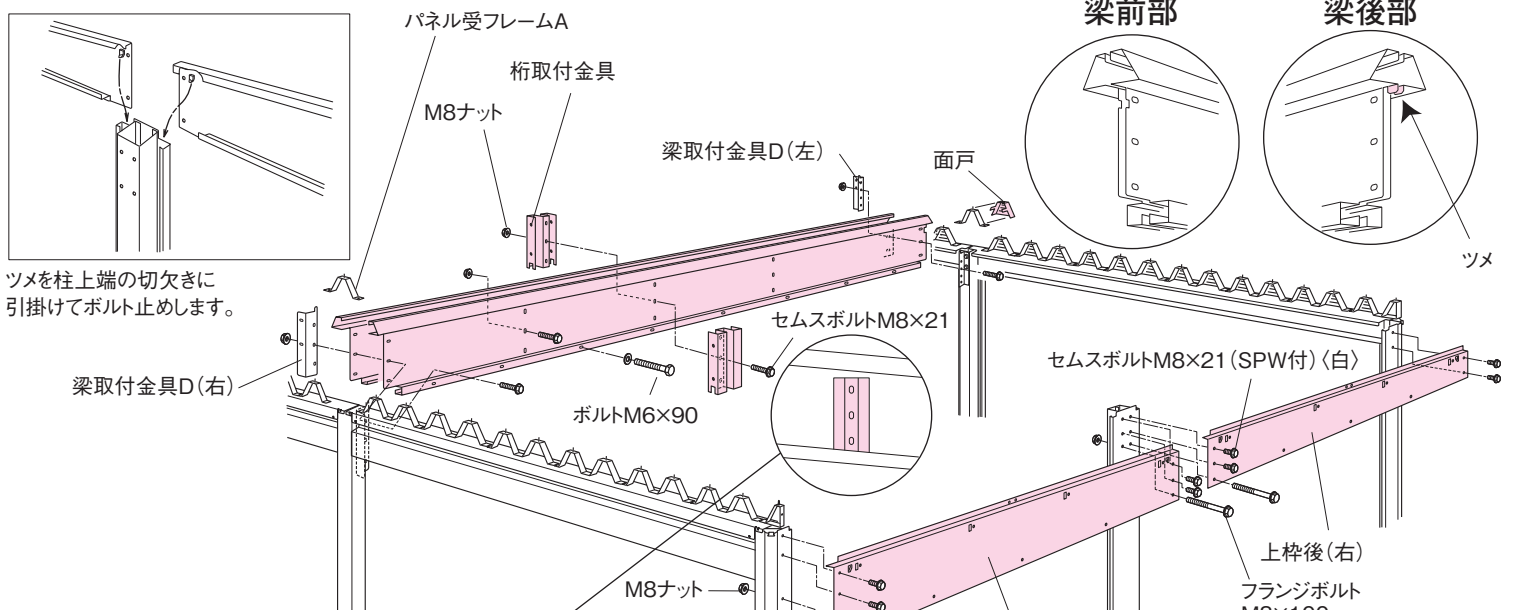
注）梁の後部にはツメがありますのでツメの有無で前後の確認をしてください。

③梁取付金具（D）を取付け梁をはさみこんで固定します。（セムスボルトM8×21〈白〉、M8ナット）
④梁中央に桁取付金具を取付け、その両サイドの孔はボルト、ナットで固定します。
（セムスボルトM8×21、M8ナット、ボルトM6×90、M6ナット）

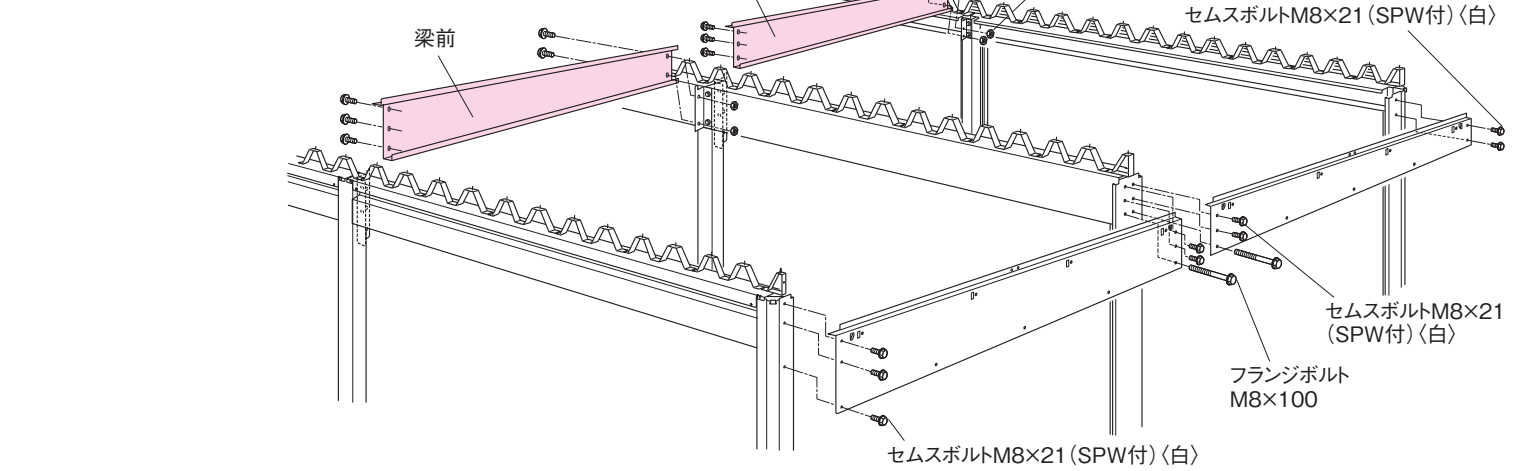
注）梁・桁取付金具を取付けるボルトはスプリングワッシャー（SPW）付ではありませんので注意してください。

注）桁取付金具は左右がありますので注意してください。逆に取付けますと金具は傾きます。

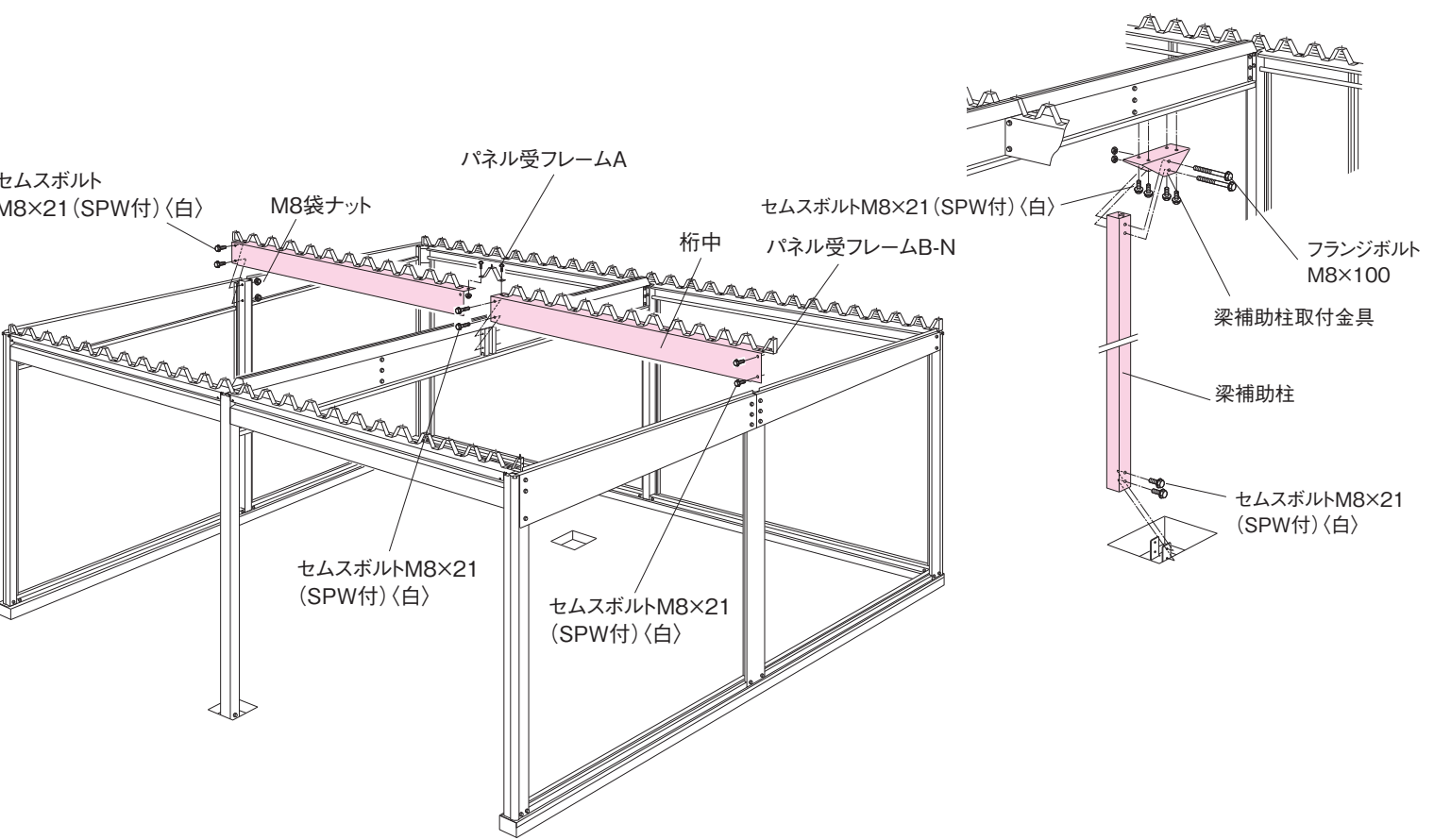
⑤桁前、桁後の連結部にパネル受フレームA、面戸を取付けます。（ナベ小ネジM6×14、M6ナット）

梁前部　梁後部

注）金具の底には傾斜がついている為、左右逆に取付けると金具は、傾いて取付いてしまいます。

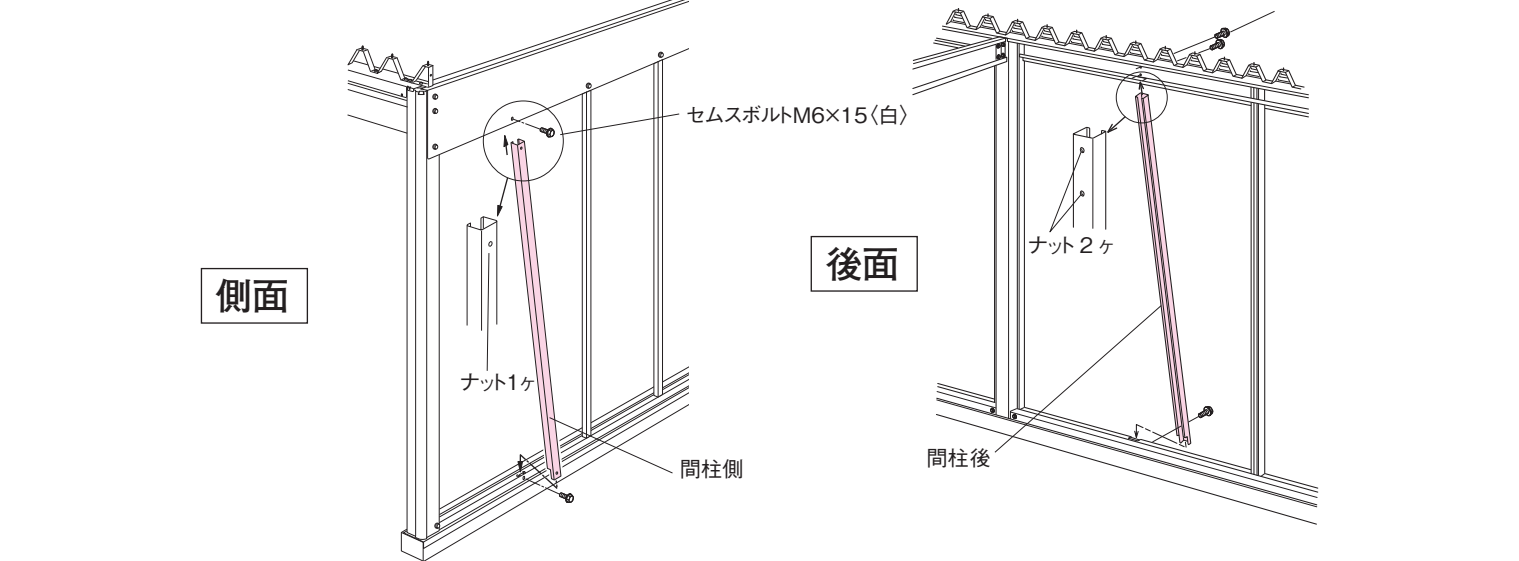
間仕切り付タイプ、中間ブレース付タイプ

①上枠前右左と上枠後を取付けます。（セムスボルトM8×21（SPW付）〈白〉、フランジボルトM8×100〈白〉、M8ナット）
②梁前、梁後を取付けます。
（セムスボルトM8×21（SPW付）〈白〉、M8ナット）

7 桁中 標準タイプのみ

①桁中を取付けます。（セムスボルトM8×21（SPW付）〈白〉、M8袋ナット）
②連結部にパネル受フレームを取付けます。（ナベ小ネジM6×14、M6ナット）
③奥行62タイプは梁に梁助柱を取付けます。

奥行62タイプのみ

8 間柱

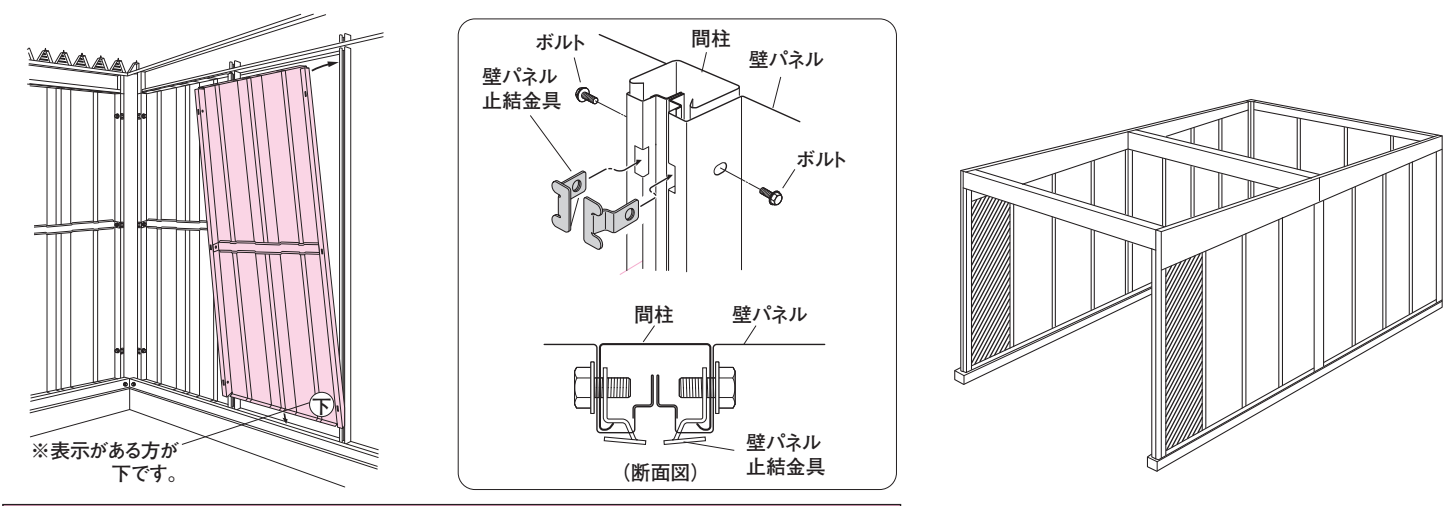
①間柱を取付けます。（セムスボルトM6×15〈白〉）
※間柱には、側面用と後面用の2種類があり、
上部にナットが1個付の間柱は側面に、
2個付の間柱は、後面に取付けます。

※「強風地向け補強材」付の場合、間柱は専用間柱になります。（板厚1.6mm）
※「強風地向け補強材」付の場合、上枠補強材を先に上枠にのせて間柱と一緒にボルト固定してください。
（「強風地向け補強材」組立説明書参照。）

注）引戸、補助ドア、サッシ窓のある場合は壁パネルの取付けと同時に行なってください。

9 壁パネル

①内側から壁パネルをはめ込み壁パネル止結金具で仮止メをします。（金具を挿入するだけで壁は倒れてきません）
②壁パネルをはめ込み終わったらボルト止メしてください。（セムスボルトM6×15白）

注）指で壁パネル止結金具を外側に押さえつけてボルト止メしてください。

※表示がある方が下です。

注）壁パネルと間柱に段差があると壁パネル止結金具が入りにくくなる場合があるので注意してください。

連棟タイプの場合、下図の斜線部の壁はシャッター取付け後にはめ込んでください。

10 ブレース

①ブレースを取付けます。（セムスボルトM8×30（SPW付）〈白〉、フランジナットM8）
※調整は屋根を乗せた後行ないます。

	使用ボルト	梱包
標準	M8×30（SPW付）	本体部品箱
強風地向け補強セット	M12×30（SPW付）	強風地向け補強セット梱包

※「強風地向け補強材」を取付ける場合ブレース取付け孔を12φに広げてください。

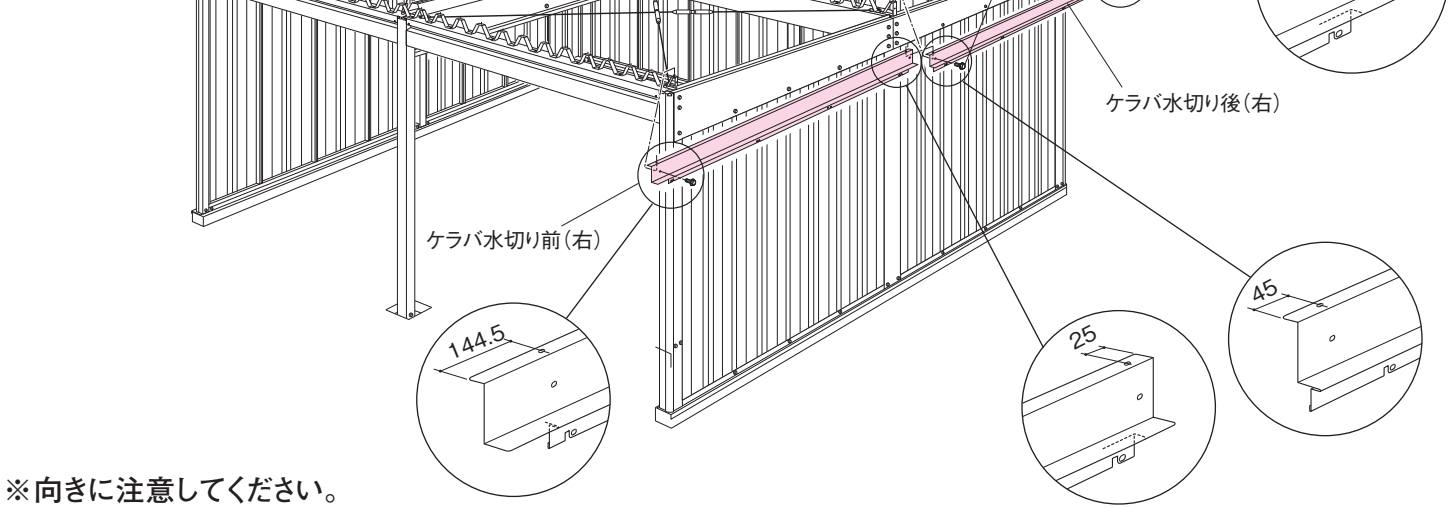
屋根ブレース組合せ表

使用機種 間口	奥行	ブレース長さ（mm） L	ℓ1	ℓ2
19	52	2,958	1,300	1,598
	55			
	59	3,264	1,500	1,704
	62	3,581		2,021
26	52	3,368	1,500	1,808
	55			
	59	3,640	1,400	2,180
	62	3,926	1,500	2,366
30	52	3,606	1,400	2,146
	55			
	59	3,862		2,402
	62	4,133	1,300	2,773
33	52	3,862	1,400	2,402
	55			
	59	4,101	1,500	2,541
	62	4,358	1,300	2,998

※「強風地向け補強材」付の場合φ10.7になります。

注）カーポートを連結する場合はこの後から施工してください。（組立説明書はカーポートの部品箱に入っています。）

11 ケラバ水切り

①ケラバ水切り後を取付けます。
②ケラバ水切り後の上にケラバ水切り前を取付けます。
※ケラバ水切りには、前後左右がありますので図の孔ピッチでご確認ください。
③上枠の角孔及び丸孔とズレが無いことを確認した後、前、中、後の3ヶ所をパネル受フレームと固定します。（セムスボルトM6×15〈白〉、M6ナット）

※向きに注意してください。

12 屋根

①屋根後を向かって左の後から乗せてください。
②後の屋根を乗せ終わったら防水パッキンを図のように貼付け、谷部のコーナーにはコーキング剤を施してください。
③屋根前を向かって左から乗せてください。屋根を乗せ終ったらターンバックルを調整し柱が垂直になるように調整してください。
④屋根の両端部を残し、ウールパッキン、山座を挿入し、固定します。（ナットM8）
⑤屋根を固定した後、重ね部分の中央部をフレーム間で2ヶ所ルーフテックスで固定し、剣先ボルトには剣先ボルトキャップ、ルーフテックスにはルーフテックスキャップをかぶせます。
⑥屋根下のルーフテックスのネジ部分にはルーフドリルビスキャップをかぶせます。
⑦屋根の先端に水上面戸をビス止めし、内側にコーキングをします。（テックス 4φ×13）

部材名の印字のある方がガレージの前側になります。

注）結露防止材付の場合結露防止材を貼っていない方が後側（重ね部）にくるように乗せてください。

13 ケラバ包み 鼻隠し

①ケラバ包み前にケラバ包み接続金具を取付けます。（セムスボルトM6×15〈白〉）
②ケラバ包み前を本体に取付けます。
③ケラバ包み後を本体に取付けます。
④室内側から金具で上枠とケラバを固定した後、上面をルーフテックスで固定します。（セムスボルトM6×15〈白〉）
⑤ケラバ前に鼻隠しコーナー（前）を取付けます。（セムスボルトM6×15〈白〉）
⑥鼻隠し前を取付けます。（セムスボルトM6×15〈色付き〉、ルーフテックス）
⑦桁前カバーを取付け、換気栓も取付けます。（セムスボルトM6×15〈色付き〉）
⑧鼻隠し後を取付けます。（ルーフテックス）
⑨鼻隠しコーナー（後）を取付けます。（セムスボルトM6×15〈白〉、ルーフテックス）
⑩ルーフテックスの頭にルーフテックスキャップをはめ込みます。

室内側

※換気栓は必ず外側いっぱいにスライドさせ、しっかり固定されていることを確認してください。

14 シャフトの取付け

①ブラケットを前柱に取付けます。（セムスボルトM8×21（SPW付）〈白〉）
②桁前の下面とブラケットのガイドを固定します。
（セムスボルトM6×15（色付き）、M6ナット）

注）間口33タイプのブラケットはシャフト受金具が他のサイズのものよりも大きいので必ず33タイプに取付けてください。

③シャフトの（右）（左）に注意して、ラベルが室内側に向くようにシャフトをブラケットに取付けます。
（ボルトはブラケットに仮止めしてあります。）

⚠注意 シャフトは（右）（左）を逆さに取付けないでください。シャフトが逆回転して非常に危険です。

⚠注意 この状態では、ピンを絶対にはずさないでください。ピンをはずすとシャフトが急回転して非常に危険です。

⚠注意 シャフトの（右）・（左）の確認、及びスラットがガイドに入っているか確認をします。

15 スラットの取付け

①スラットを差し込みガイドを使って順次差し込んで行き、継ぎ目の両端をペンチ等でカシメ固定します。

②スラットをおろし柱とゆがみがないか確認してください。
（ターンバックルで調整してください。）
※柱の傾きが5mmを越えるとシャッターの開閉に、支障をきたす場合がありますのでサゲフリ等で寸法の確認を必ず行ってください。
尚、レール間ピッチも上下とも5mm以内で施工してください。

⚠注意 柱が広すぎると鍵がかからなくなるだけでなく、強風時にスラットがレールから抜ける場合があります。

③シャフトを少し回転させた状態で左右両端の固定ピンを抜き取ります。
※固定ピンは、間口タイプの違いにより種類が異なりますので確認してください。

⚠注意 その他のボルト・振れ防止ピンは絶対に外さないでください。

⚠注意 スラットの取付けが完了してから固定ピンをはずしてください。スラットの取付けが完了する前に固定ピンをはずすとシャフトが急回転し非常に危険です。

対角の確認

⚠注意 スラットは、4分割されておりシャフトを取り付けた後、左（又は右）から差し込みガイドを使って順次差し込んで行くようになっています。差し込むスペースがない場合は、予めスラットを一体にしてからシャフトに取付けてください。

16 レールの取付け

①レールを前柱に取り付けます。（セムスボルトM8×21〈色付き〉）
②両サイドの柱には、中央2ヶ所にレール補強金具を取付けます。
③連結部は下部にレールカバーを取付けます。（セムスボルトM8×21（SPW付）〈白〉）

※シャッターレールを埋込む場合下図の様に穴を掘ってレールを取り付けた後、穴を埋めてください。

17 完 成

最後に、ボルトのゆるみがないかどうかもう一度確認し、
前柱中、中柱中の基礎部を、モルタルで埋めてください。
テックス等の切粉は必ず取り除いてください。
下図の位置に銘板を貼付けてください。
鍵は錠の裏側にあります。お客様にお渡しください。
本書と取扱説明書はお客様にお渡しください。

銘板貼付位置

この組立説明書はエコマーク認定の再生紙を使用しています

お客様へ　組立説明書と取扱説明書は大切に保管してください。
施工業者の方へ　取扱説明書は大切な書類です。本書と取扱説明書は、必ずお客様にお渡しください。

Raviege
（一般地型）
ヨドコウ
淀川製鋼
（2010.11月制作）